

## 平成 27 年度 第 1 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録

日時：平成 26 年 05 月 16 日（土）14:00～17:30

場所：主婦会館プラザエフ

### ■出席者

委員長：桑原 雅夫（東北大学）

副委員長：秋山 孝正（関西大学）、久保田 尚（埼玉大学）

幹事長：多々納裕一（京都大学）

学術小委員長代理：福田 大輔（東京工業大学）

学術副委員長：藤田 素弘（名古屋工業大学）

春大会運営小委員長代理：吉井 稔雄（愛媛大学）

H27 春大会開催校：大枝 良直（九州大学）

H27 秋大会開催校：浜岡 秀勝（秋田大学）

次期幹事長：羽藤 英二（東京大学）

委員兼幹事：有村 幹治（室蘭工業大学）、藤見 俊夫（熊本大学）、福本 潤也（東北大学）、  
福田 大輔（東京工業大学）、井田 直人（北海道科学大学）、出村 嘉史（岐阜大学）、  
鳩山 紀一郎（東京大学）

### ■資料

- [資料 1] 平成 27 年度 第 1 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録（案）
- [資料 2-③] 土木計画学研究委員会 小委員会・ワークショップ 活動状況
- [資料 2-④] ホームページの修正・更新状況
- [資料 2-⑤] 土木計画学研究委員会国際セミナーについて（報告）
- [資料 2-⑥] 国際センター・出版委員会 状況報告
- [資料 2-⑦] 平成 27 年度全国大会研究討論会申し込み（案）
- [資料 3] 学術小委員会からの報告
- [資料 4-1-1~6] 第 51 回 土木計画学研究発表会（春大会） 準備状況に関する一式
- [資料 4-2] 第 52 回土木計画学秋大会（秋田）の開催準備状況
- [資料 5-1-1] 健康まちづくり研究小委員会 設置申請書
- [資料 5-1-2] 地方創生と若者生活研究小委員会 設置申請書
- [資料 5-2] スペシャルセッション：土木計画の思想的背景の検討
- [資料 5-3] 土木計画学 50 周年記念シンポジウム「2015 北海道道路国際シンポジウム 人間社会とリスクー災害と交通ー」
- [資料 5-4] 「50 周年記念セミナー」および「50 周年記念シンポジウムおよび特別セッション(2016 年秋大会)」
- [資料 5-5] 平成 27 年度ジョイントセミナー実施テーマの募集（ご案内）
- [資料 5-6] 発行までのスケジュール案（土木計画学ハンドブック）

## 1. 開会

- ・桑原委員長より、開会の挨拶がなされた。
- ・資料1に基づき、前回の議事録を確認した。

## 2. 平成26年度幹事担当タスクの検討状況報告

### ① 活動評価・中期目標対応（報告者：藤見）

- ・今回までは、旧フォーマットに従い整理する（7月より新フォーマット）。20日には報告する。

### ② 本委員会対応（報告者：福田）

- ・次回委員会は、春大会初日（6月6日の昼休み）に開催予定。

### ③ 研究小委員会対応（報告者：井田）

- ・資料2-③の通り、小委員会・ワークショップなどの活動状況が報告された。
- ・今春までで期限の切れる小委員会は3件（連番3、5、12の研究小委員会または事業小委員会）。
- ・「3. 市民生活行動研究小委員会」は新たな小委員会の設置申請あり（資料5-1-2）
- ・「12. バスサービスハンドブック出版事業小委員会」は2年間の延長申請あり。出版事業のための小委員会であるが、期限後に出版が延びる見込みであり、これに伴うセミナー・講習会などの開催するため。→ この点の審議がされ、十分な理由であるとして認められた。
- ・各小委員会では意義のある活動がされているにも関わらず、研究委員会全体に浸透するアピールが不足しているのではないか、という点が議論され、小委員会においては、ワンデーセミナーを出来る限り開催することを、幹事会として要望することとされた。

### ④ HP担当（報告者：藤見）

- ・資料2-④に基づき、関連プロジェクト一覧の更新、CMS化への進捗状況などが、報告された。
- ・CMS化について、サーバーはKAGOYA JAPAN株式会社と契約したこと、デザインは新たに株式会社四季デザインに発注したことが報告された。
- ・以下の意見が出された。
  - 研究小委員会ページのコンテンツに関して、関連する情報や過去の情報の蓄積を、Web上で閲覧できるようにしてほしい。
  - 関連行事・成果などの情報も閲覧できるようにしてほしい。
  - 更新する際に、研究小委員会への要望として、ワンデーセミナー・国際セミナーを積極的に開催することを促すとよい。← Web更新を待たなくても、個別にセミナー依頼はすぐにすべき。

### ⑤ 国際セミナー（報告者：藤見）

- ・資料2-⑤に基づき、26年度の国際セミナー開催状況が説明された。
- ・呼びかけ、資金補助の情報により、過半期にかけこみ開催が多かった。
- ・Certificate of Application（感謝状）は、講演の成果にもなり講演者に大変喜ばれるものであるが、存在が知られていないため、ほとんど利用されていない。積極的に告知すべきであるので、「サンプル」を表示するなどして、積極的に広報することとされた。
  - まずは、次回委員会にて、サンプルを配布することとされた。
- ・国際セミナーのメリット（会場が無料で使用できる、感謝状が出されるなど）を整理して、あわせて告知することとされた。

### ⑥ 国際センター・出版委員会担当（報告者：藤見）

- ・ 資料 2-⑥の内容が確認された。

#### ⑦ ワンデーセミナー・シンポジウム（報告者：福田）

- ・ ワンデーセミナーなどの実施状況が報告された。ワンデーセミナーは下半期に増加し 6 件開催された。
- ・ はじめから委員会からの資金援助が約束できればよいが、現状では固定した予算ではないので、難しい状況が説明された。

#### ⑧ 全国大会研究討論会（報告者：鳩山）

- ・ 資料 2-⑧に基づき、土木計画学研究委員会と海岸工学委員会で共同開催する研究討論会が予定されていることが報告された。土木学会会長、各委員会の代表に加えて、ランドスケープデザインを専門とする石川幹子教授が登壇することが確認された。
- ・ 全国大会で関連委員会や幹事会を開催することを促すなどして、積極的な動員を図ることが提案された、幹事会はその予定とすることが確認された。

### 3. 学術小委員会からの審議・報告（報告者：福田）

- ・ 資料 3 に基づき、報告がなされた。

#### D3 特集号 Vol. 32 について

- ・ D3 特集号の査読分野については、投稿数のバランスが悪くなってきたため、現状に合わせて再考する動きであることが伝えられた。
- ・ 学術小委員会では、D3 特集号の掲載方法として、Vol. 32 より CD-ROM の刊行を廃止し、直接 J-Stage に掲載することが提案されていることが伝えられた。J-Stage への掲載は例年の予定よりもやや遅れるものの、「掲載決定」の通知のタイミングは変更しないため成果を急ぐ博士学生へのデメリットは問題にならないこと、CD-ROM から転換しても委員会予算に大きな影響がないことが確認され、いち早く閲覧できるようになるメリットは大きく、幹事会はこれを奨励することが承認された。

#### 2016 年度秋大会について

- ・ 2016 年度の秋大会の開催地について、50 周年の機会に未だ開催されていない地方都市で、学術小委員会中心に開催することを検討していること、有力な候補地は長崎（長崎大学工学部も 50 周年）であることが報告された。  
幹事会としては、現地のサポート体制こそが重要であると考えため、関連分野の人的支援（会場使用の便宜、補助学生の便宜などの面で）が確かであることを条件として、「学術小委員会が現地のサポートを得て開催できる場所」を選ぶべきであると回答することとした。その点、長崎は有力な候補地になり得るかどうかが、確認が必要。
- ・ 2016 年度秋大会の開催日程は、11 月 4 日（金）～6 日（日）を予定しているが、50 周年記念行事を開催することについて、3 日（祝）を使用すべきか否かの議論がされたが、大学において開催する場合、祝日に会場を使用することの困難や、記念行事が別に 9 月に企画されていることから、3 時間程度の枠を秋大会開催日程の中（4 日）に取ることを望ましいと合意された。

#### 春大会・秋大会・D3 特集号の運営の改善をめぐる議論

- ・ 現在の研究発表会および D3 特集号の問題点を学術小委員会内の「検討メンバー」で整理した結果、計画学の学術関連組織・運営の在り方の見直し案が出されていることが報告された。
- ・ 議論は大きく二つに分けられる。1) 研究発表会（特に秋大会）の活発化について、2) 運営

組織の再編について。それぞれについて、以下のような意見が出された。

#### 1) 研究発表会の活発化について

- コメンテータをなくしたことが不活性の原因ではないか。コメンテータを復活させてはどうか。
- むしろ司会の名称を「コメンテータ」に変更するのはどうか。単なる司会なら学生で充分。(全会一致の同意を得た)
- コメンテータに賞を出すなどして、インセンティブを与えてはどうか。
- 発表者のうち、フルペーパーで出した者など限定した上で、コメンテータを指名する制度(アーリーバード的な)にしてはどうか。←この場合、メリットがある者は、従前より会場を盛り上げる者と思われるので、あまり効果はない可能性がある。
- 発表の評価項目に「土木計画学への貢献」というものがあるが、これは寧ろ議論をしにくくさせてはいないか。
- セッションの割り方を、従前の「トピック」による分割だけではなく、方法論などそれぞれのトピックに水平に展開している内容を議論できる「串刺し」の分割も設けるとよい。(全会一致の同意を得た)ただし、成功するとは限らない。

#### 2) 運営組織の再編について

下記意見が出されたが、重要な内容であるので、継続的に議論するものとされた。

- 学術小委員会試案(以下、試案)では、「学術小委員会」と「大会運営小委員会(春・秋両大会運営)」に分けられ、それらが並列に並んでいるように見えるが、むしろ「学術小委員会」が両大会を運営する「特別小委員会」を包含する形の方がよいのではないか。
  - ・ 本質的課題は、春大会と秋大会を連携的に(一体的に)運営するための議論の場をどこにもつか、ということになる。試案のようにその場が「大会運営小委員会」にあると、うまくいっている間はよいが、目前の運営に視野が奪われる場合に学術全般的な視野からの判断を欠く恐れがある。その場を「学術小委員会」にもたせた方がよい、という意見。
  - ・ 細則の変更も最小限で済む。
- 上記意見のように、学術委員会が全てを含む巨大組織になった場合、幹事会と学術委員会のバランスが大きく変わる(幹事会が管理的・事務的組織になり、実質運営を学術委員会へ移行する)ことになるが、それでよいのか。一方、大会関連の判断は、実質的には統合した1組織(大会運営小委員会)が行い、論文関係と独立させて、互いに充実させるのが試案。
- 各組織の風通しをよくして、全体的にビジョン共有できるように、共通の話題を議論する場が必要。合宿などを頻繁に行って、コミュニケーションを密にするべき。

#### 4. 研究発表会の準備状況について

##### (1)H25 春大会(報告者:吉井・大枝)

- ・ 資料4-1-1~6に基づき、春大会の準備状況・体制などの報告がなされた。
- ・ 春大会運営小委員会としての懸念事項として、1)公共政策デザインコンペの発表申込み件数の減

少（5件）、2）アブストラクト提出から企画論文提出までの間に、登録情報（著者、タイトルなど）が変更される件、3）1セッション内に発表件数が多くなり充実した議論の時間がなくなる件、が報告され、議論された。

- 2）については、オーガナイザーが当日にノーショウのチェックをして、結果を学術小委員会へ伝えることで解決してはどうか、と提案された。この場合、細かい変更点には目を瞑り、ノーショウのチェックのみを目的としている。
- 3）については、人数が多くなった場合に上手く議論する時間を取るための工夫のバリエーション（ポスターセッションにする、発表を敢えて5分くらいに要約してもらい議論を中心にするなど）を、オーガナイザー・司会に対して案内することはどうか、と提案された。また、「6件集まらないとセッションを統廃合する、というルールはこの動きに逆行するとの意見も出された。

## (2)H25 秋大会（報告者：浜岡・藤田）

- ・ 資料4-2に基づき、第52回秋大会の準備状況・開催地状況が報告された。
- ・ プログラムについて、委員会報告・招待講演に割り当てられた時間が2時間で計画されているが、委員会報告は年度内に唯一の直接的な告知の場であること、招待講演は質疑などの時間も与えられていないため、少しでも（15分程度でも）時間枠を増してほしい旨、要請がなされた。
- ・ 上記、学術小委員会の議論に合わせて、秋大会の議論活性化への配慮として、「串刺し」セッションを検討してもらいたい（統計・観測・ビッグデータ・マッピング・・・など）旨が要請された。投稿時の「キーワード」として、「トピック」と「串刺し（手法など）」の両側面から2種のキーワードを出してもらい、編集して適宜串刺しセッションを設けてはどうか、との意見が出された。

## 5. H26 年度の幹事会タスクについて

### 5-1 新規の研究小委員会

#### 5-1-1 「健康とまちづくり研究小委員会」の立ち上げについて（報告者：秋山）

- ・ 資料5-1-1に基づき、標記研究小委員会の設置について、報告された。
- ・ 予算は資料に記載の私立大学戦略的研究基盤形成事業に応募中である他、関西大学独自の資金支援も得る。
- ・ 健康まちづくり（Health City）というテーマは世界的にも取り組まれている時宜を得たものであるため、ローカルな地域に根ざした展開の他、インターナショナルにも展開することが期待できる、との意見が出された。

#### 5-1-2 「地方創生と若手生活研究小委員会」の立ち上げについて（報告者：井田・羽藤）

- ・ 資料5-1-2に基づき、標記研究小委員会の設置について、報告された。
- ・ 採択された科研費の期間に合わせて、4年間の研究期間で申請されている（本委員会では3年間を原則としている）点について、研究期間の最終年度には、成果の出版、イベント（ワンデーセミナー）開催など、社会的な浸透の動きが期待できることから、4年間の期間が承認された。

### 5-2 土木計画学（春大会）SS部門：「土木計画の思想的背景についての検討」について（報告者：秋山）

- ・ 資料5-2に基づき、標記開催予定のSSの予定が報告された。
- ・ 50周年の企画として考えており、事後に報告書などにまとめる予定。Webを用いて成果を公表する

こともしてほしい旨、要請された。

#### 5-3 50周年記念セミナー「2015 北海道道路国際シンポジウム」について（報告者：有村）

- ・ 資料 5-3 に基づき、標記開催予定のシンポジウムの予定が報告された。
- ・ 災害と交通がテーマの国際シンポジウムであり、国際セミナーに位置付けることが薦められた。
- ・ 十分な集客を図りたいため、次回委員会において田村教授（北海道大学）に内容の案内をして頂きたい旨、要請された。

#### 5-4 「50周年記念セミナー」「50周年記念シンポジウムおよび特別セッション」（報告者：久保田）

- ・ 資料 5-4 に基づき、2016 年 9 月に東京にて土木計画学 50 周年を寿ぐセミナーを開催すること、それへ向けて十分な準備を進めていく計画について、計画の報告がなされた。
- ・ 資料に示されたロードマップに沿い議論され、2015 年度 6 月頃から WG の準備を始め、同年度の秋大会にて公表および WG メンバーの募集を行い、次年度へ向けて準備を進める流れに概ね定められた。
- ・ このため、諸段階の WG の準備を、次期幹事長（羽藤教授）・久保田副委員長・鳩山幹事の特選メンバーで進めることが決められた。

#### 5-5 平成 27 年度ジョイントセミナーについて（報告者：藤見）

- ・ 資料 5-5 に基づき、土木学会国際センターから出されている募集案内が報告された。
- ・ 海外の学協会との間のジョイントセミナーが対象とされていることが、確認された。

#### 5-6 土木計画学ハンドブックについて（報告者：福本）

- ・ 資料 5-6 に基づき、土木計画学ハンドブックの出版へ向けた進捗状況が報告された。
- ・ 大沢幹事との間で、出版のタイミングに関する議論を進めるよう、要請された。

## 6. その他

- ・ 次期幹事長（羽藤教授）が紹介され、羽藤教授より挨拶がなされた。
- ・ 次回委員会は、H26 年 6 月 6 日九州大学にて、春大会の昼休みに開催されることが、告知された。
- ・ 次回幹事会は、H26 年 9 月 17 日 15 時～18 時の予定で、全国大会開催中の岡山大学にて開催されることが合意され、告知された。
- ・ 多々納幹事長より、任期最後の幹事会の終了にあたり、謝意を含めた挨拶がなされた。

（記録：出村）